

青森県六ヶ所村にある、核燃料サイクル施設の建設は、1993年から約2兆1,900億円超の費用をかけて着工されました。24年後の現在も、使用済み核燃料から、核燃料のウランとプルトニウムを取り出し、MOX燃料と高速増殖炉の燃料にするための再処理工場は実用化する見通しが見えません。6年前の福島原発事故を契機に、原発の稼働は縮小されましたし、高速増殖炉もんじゅは計画が断念されました。すでに許容量の使用済み核燃料が保存され、それ以外の使用済み核燃料は各原発で保存していて、行き場がないのが現状です。



核燃料再処理工場施設（日本原燃ホームページ）

この施設を運営する日本原燃(株)は、作業の遅れはもとより、度重なる事故が起こり、信頼を失っています。私はネットの報道で六ヶ所村のこの施設に関する情報に目を通してきました。

2017年1月には、品質管理の担当部署が適正な検査を行わずに、改善策が完了したと嘘の報告をし、それが発覚し、再発防止のため、人事の刷新を行ってスタートしました。

2月には使用済み核燃料の再処理工場で、低レベル放射性廃棄物の貯蔵のドラム缶480本のうち6本から液体が漏れ出したような痕が相次いで見つかったのです。保管する際に廃棄物を密閉する袋に切り込みを入れるなどの不適切な管理方法が取られていたことが分かり、更に原子力規制庁から改善を指示されました。

3月に再処理工場の建屋の排気用ダクトに腐食でできたとみられる穴が見つかったのです。3年前にも同様の腐食があったのに、根本的な対策がなされていませんでした。

4月に再処理工場の非常用発電機の2系統あるうちの1系統が12月に正常に作動しなかった原因を特定できなかったことを発表しました。

7月にはウラン濃縮工場非常用のディーゼル発電機から出火しました。28年間も一度も部品を交換していなかったことが判明しました。そして東通原発の事故に備えて、付近の住民に、幼児用のゼリー状も含め、ヨウ素剤が配布されました。

8月には原子力規制庁は相次ぐ安全管理の不備により、日本原燃(株)の管理能力があるのか否か、疑問を提示しました。さらに再処理工場の地下のトンネルを通る配管の貫通部から非常用発電機がある建屋に雨水が流入していました。

9月に、雨水の流入の原因は「閉止板」と配管などとの隙間を埋めている素材が劣化していたことが明らかになったのを受けて、様々な安全管理の不備で反省し、ウランの生産を一時停止することにしました。当面国の審査には合格できない見通しとなりました。そのうえ、職員の時間外労働がありました。労働基準法にも違反しています。

このような信じられない安全管理(?)をして、働く人の健康や安全にも疑問があり、地域の住民はもとより、美しい大自然を汚染する六ヶ所再処理工場は莫大な税金を使って、使用済み核燃料を持て余しているのです。便利で快適な生活より、貧しくても、安全、安心な平和な暮らしを私は求めています。